



県政報告 Vol.35

2025.11月発行



愛知県議会議員 神谷まさひろ

「日記で綴る県政報告Vol. 35」をお届けします。今回は9月22日(月)から10月15日(水)まで24日間の会期で開催された9月定例愛知県議会の内容の他、技能五輪全国大会、有機農業の推進、高校の授業料無償化といった分野で尽力してきた市民の皆様の活躍を掲載しています。ぜひともご一読頂き、県政を少しでも身近に感じて頂けたら幸いです。



9.17 水 カスハラ防止対策 相談窓口の開設とアドバイザー派遣を開始します

先の6月定例会では、カスハラを防止し、就業者が安心して働くことができる職場環境を整備するとともに、事業者が円滑に業務を遂行できる環境を実現するため、基本理念などを定めた「愛知県カスタマーハラスメント防止条例」が可決しました。7月11日に公布され、10月1日から施行することになっています。

そして今日から、カスハラ防止対策に関する啓発・事業者支援の一環として、事業者向けの相談窓口を開設するとともに、事業者へのアドバイザーの派遣が開始されました。

■事業者向けカスハラ相談窓口

「カスハラ防止対策は何から始めたら良いか」「マニュアルの作成方法を教えてほしい」といったご相談に、相談員や社会保険労務士が丁寧に対応します。相談料は無料で、電話またはオンラインから受け付けます。

■アドバイザーの派遣

各社でのカスハラ防止対策マニュアルの作成や社内研修の実施方法などについて、社会保険労務士などのハラスメント対策や労務管理の専門家が課題解決に向けた伴走支援を行います。こちらも、利用料は無料です。

また、条例の内容を詳細に解説する指針(ガイドライン)も策定されました。ガイドラインでは、カスハラの具体的な内容や、防止対策の取組主体となる県、事業者、就業者、顧客等の責務などについて、事例を交えながら分かりやすく説明しています。ぜひ、カスハラ防止対策の参考としてください。



9.22 月 9月定例愛知県議会が開会しました

今日から10月15日(水)まで24日間の会期で9月定例愛知県議会が開会されます。本定例会には予算議案3件、条例議案5件、その他の議案17件の計25件が上程されました。

に、当該駐車区画における不適切な駐車を抑制し、適正利用を図ることを目的とする制度です。2026年6月の制度開始に向けて、障害者・要介護者などの利用者及び駐車場を所有する事業者からの問い合わせを受ける事務局の設置や広報啓発等の準備を進めて行きます。

②新たな一時保護所の整備

一時保護所に入所する児童の環境改善と受入体制の強化を図るため、三河地区の一時保護所について、デザインビルド方式により移転整備を進めて行きます。

③県営都市公園大高緑地の将来構想の検討

半世紀以上にわたり県民の皆様が親しまれてきた大高緑地のリニューアルに向け、未整備区域の有効活用による新たな魅力の創造、長年親しまれてきた公園の再生

一般会計補正予算は186億7707万余円。知事の提案説明の中から補正予算における主な事業を紹介します…

①パーキング・パーミット制度

障害のある方など歩行が困難な方に対して利用証を交付することで、障害者等専用駐車区画の対象者を明確にするとともに



によるバリューアップ、機能的な施設配置による利便性の向上、優れた交通アクセスを活かした交流機能の強化といった大高緑地のポテンシャルを最大限に活かした新たな将来像を検討して行きます。

④建設事業

道路舗装の修繕や河川の浚渫、護岸の改修や治山事業などの単独事業と併せて、国庫補助の内示増に伴う公

共事業として、幹線道路等の整備、土地区画整理事業、港湾改修などについて追加計上します。

⑤交通安全対策

県内の厳しい交通事故情勢を踏まえ、緊急交通安全対策として、事故が多発する交差点の信号灯器のLED化や、道路標識・標示の更新に要する経費について計上し、交通事故の抑止に努めます。

9.26 金 代表質問 新たに事業推進が期待できる答弁を紹介します

9 月定例愛知県議会。今日は自民党、あいち民主共に幹事長による代表質問が行われました。知事の答弁の中から事業の推進が期待できる前向きな答弁を紹介します…

- JR安城駅付近において、来年度から新たに、連続立体交差事業の調査に着手する
- 国土強靱化と生産性向上の両立を図る社会資本整備をより一層推進していくため、今後5か年にわたる「新たな社会資本整備方針」を年内に策定する
- 不妊治療に対する県独自の取組として、保険適用外の先進

医療の治療について、経済的負担の軽減を図るため、その費用の一部を助成する制度を創設し、来年度の事業開始を目指す

- 尊重すべき子どもの権利の内容や、こども施策に対する県の姿勢を明らかにする条例の制定に向けて検討をする
- 文部科学省が、小学校に引き続き、中学校に35人学級を切れ目なく実施していくことを来年度予算の概算要求で示したので、愛知県としては中学校についても、小学校における対応と同様に、国に1年先行して35人学級を拡大する(つまり中学2年生まで)

9.30 火 奨学金返還支援事業 制度をもっと魅力あるものにすべきです

一 般質問の2日目。休憩の後に再開した際、大村知事がゼブラ柄のスーツで議場に入って来られ議員の中から拍手が沸きました。

人々を笑わせ、そして考えさせるような研究に対して贈られる「イグ・ノーベル賞」。愛知県農業総合試験場と京都大の研究チームが行った白い塗料で黒い牛をシマウマのような模様にする、アブなどの吸血昆虫が近寄りにくくなるという研究が9月18日、「イグ・ノーベル賞」を受賞したことの紹介と祝意を込めてこのゼブラ柄のスーツを着用し、その後の答弁を行いました。

今日も自民党5名、あいち民主2名の議員が登壇しました。その一般質問の中で、愛知県が昨年度から行っている「奨学金返還支援事業」に関する質問がありました。今年の2月議会の議案質疑で私も取り上げ、今回も委員会での一般質問で質そうと思っていた項目です。

答弁によりますと、今年度の県からの補助額は約680万円になる見込みとのことです。今年度の予算額が約3553万円ですから、僅か5分の1しか利用されていないことになります。当局は、PR不足といった認識のようですが、そうではなくて「制度そのものに魅力がない」ということだと私は思っています。

今日の一般質問でのやり取りを参考にして、委員会の中でしっかり議論したいと思います。



10.7 火 市民の力が行政を動かしました 大府市の給食に有機米が

夜 、刈谷まちづくり市民会議10月例会に出席しました。

ゲストスピーカーはfarm to table代表の望月雅美さんです。farm to tableというのは、人にも地球にも優しい地元産の食材が学校給食に取り入れられることなどを目的に

2021年3月に設立された市民グループで、大府市を中心に活動しており、農業や肥料等を施さない米や大豆の栽培、食や環境にまつわるワークショップ等を実施しております。大府市内の有機農業者や慣行栽培からの有機転換者等で構成し、有機農業の普及を図る団体「おおびニックのWA」にも参加し、生産者支援や加工品開発・販売を行っています。

望月さんと出会ったのは今から5年ほど前、千葉県のいすみ市などの例を参考にしながら、大府市でもオーガニック給食を実現しようとする活動がスタートした頃です。今日の望月さんの報告を聞いて、素晴らしいリーダーシップと持ち前のバイタリティーで立派な成果を上げられたなあ



～と感心すると共に嬉しい気持ちになりました。

有機農業の推進には、「無農薬・化学肥料なしでコストと手間暇を掛けて生産してもそれに見合うだけの価格で間違いなく購入してくれる存在」が不可欠であり、それが学校等の給食なのだと思います。そしてそのためには、給食をセンターで大量に調理しているのではなく、自校・自園で調理していることがポイントであると思います。その点、大府市は給食を自校・自園で調理していますから、給食への有機食材導入は比較的やり易かったのではないかと思います。それでもこうして市民の小さな力が様々な分野の人々と繋がり大きな力となり、行政に働きかけることによって市民の夢が実現したことは本当に素晴らしいことだと思います。

市民活動が行政を動かす代表事例のような活動です。これこそが「市民の政治参加」「実体験から学ぶ主権者教育」ということだと思います。

10.14 火 名古屋岡崎線の事業推進を知事に直接要望しました

愛

知県公館において、名古屋岡崎線の豊明刈谷工区の早期完成に向けて一層の事業推進の要望を大村知事・西川建設局長に対して行いました。要望側の出席者は稲垣刈谷市長・小浮豊明市長・豊明市選出の坂田県議、そして刈谷市選出の細井県議と私です。

この名古屋岡崎線というのは、名古屋市緑区の国道302号から豊明市・刈谷市・豊田市・安城市を経て岡崎市の国道1号に至る延長26.3Kmの主要幹線道路で、刈谷市ではハイウェイオアシスの北側を通っています。

この道路は地域経済の活性化のほか、緊急輸送道路ネットワークの機能強化に資する道路として豊明刈谷工区の早期整備が強く求められています

現在、境川に架かる尾張三河橋は、橋桁の架設が完了し、



竣工に向けて進捗している状況で、地域の皆様からも早期の開通が待望されているところです。

私も県議会議員としてより一層の整備促進に尽力して参ります。

10.15 水 9月定例愛知県議会の最終日 国に意見書を提出

9

月定例愛知県議会の最終日です。上程された議案は、一部に反対意見もありましたが、議員提出議案も含め全て可決しました。

国に対する意見書4件も採択されました。

①ガソリンの暫定税率の廃止を補う恒久的な地方財源の確保について

暫定税率が廃止された場合、愛知県では300億円を上回る税収の減少が見込まれています。そこで、廃止を補う恒久的な地方財源の確保を図るよう要望するものです。

②ゲノム編集技術応用食品の表示に係る更なる検討について

ゲノム編集技術応用食品については、食品表示基準に基づく表示の対象外とされているため、国に対して十分な情報発信に務めると共に、表示に係る更なる検討を行うように要望するものです。

③地方財政の充実・強化について

物価高から生じた減税を求める動きや、年収の壁の見直し、高等教育や給食費の無償化など新たな地方負担を伴う可能性のある政策議論が進んでいるため、地方に十分配慮した丁寧な議論を行うと共に、地方財源に影響が生じないように恒久的な財源確保を求めるものです。

④ウナギのワシントン条約附属書への掲載提案に対する適切な対応について

現在、EU等において本年11月に開催されるワシントン条約第20回締約国会議に向けて、ニホンウナギを含むウナギ属全種を野生動植物の国際取引を規制する附属書Ⅱの対象に加える旨の提案が行われています。そうした動きに対して、わが国の資源管理の取組を説明し、過度な規制を避けるために最大限の外交努力を尽くすよう求めるものです。



10.20 月 技能五輪全国大会 愛知県選手団が輝かしい活躍です

技

技能五輪全国大会の閉会式に出席しました。10月17日(金)に開会し、全国から集った1025名の選手が42種目の競技に熱戦を繰り広げました。

愛知県選手団は第43回大会から21年連続で最優秀技能選手団賞を獲得、そして自動移動ロボット競技では金・銀・銅賞全てを愛知県選手が独占するなど、ものづくり県である愛知の底力は凄いなあ～と感じました。

受賞した選手が舞台上に行くまでに映し出される映像を見ていると、仲間と抱き合って喜ぶ姿や嬉し涙を流すシーンがあり、こちらも思わず目頭が熱くなりました。目標に向かって一生懸命やっている姿は人々に感動を与えます。

今年はエキシビジョンとして行われた「介護」競技も、来年は正式種目になるとのこと。今後益々需要が高まる「介護」の仕事においても、介護従事者個人の技能の専門性が適正に評価されることは素晴らしいことだと思います。



あらゆる職種において、目標を持ちながらやりがいを持って頑張る若者達が日本の明日を支えています。

10.26 日 「恩送り」の活動が実を結ぼうとしています

安

城学園高校で開催された『ふれ愛・ときめき西三河フェスティバル2025』に来賓として出席しました。

公私間格差是正・授業料助成の拡充などを目的に、学費の公私間格差が30倍もあった時代から約半世紀に亘り行われている運動です。そしてそれがこの度、国の方針により高校授業料の無償化は実現する見通しとなりました。



『「恩送り」という言葉があります。自分の時には実現しない

ことが判っていても、次に入学してくる後輩の時代には授業料の無償化が実現しているように願って活動する…自分が先輩から恩を受けたように、その恩を次の世代に送って行く。保護者の皆さんの半世紀に亘る活動は正に「恩送り」の崇高な活動です。そしてその活動が今実を結ぼうとしているのです。「恩送り」に応える方法は唯一つ、生徒の皆さんが生き生きと充実した学校生活を送って、後輩たちが目標とする学校にすることです。』来賓としてこのような主旨で挨拶をさせていただきました。

一方、入学金についてはこれからです。入学金補助の所得制限を撤廃して無償化を図るなど、まだまだ県議として頑張らねばならないこともありますので、これからもしっかりと取り組んでいきます。

